

法政大学大学院
入学試験問題用紙

試験科目	人文科学研究科 日本文学専攻 修士課程《社会人》	二〇二六年度 春季	試験時間
専門科目			一一〇分

〔注意〕

【Ⅰ】【Ⅱ】【Ⅲ】の解答は、それぞれ別の解答用紙に記述すること。
そしてその際、必ず問題番号を冒頭に記載すること。

〔Ⅰ〕あなたが研究(もしくは創作活動)を進めるにあたって、もつとも重視する研究(または評論)を
挙げ、その意義を説明しなさい。

〔Ⅱ〕つぎのア～キのなかから3つを選んで説明しなさい。

- ア 風土記
- イ 六歌仙
- ウ 曾我物語
- エ 本居宣長
- オ 自然主義
- カ 私小説
- キ 変体仮名
- ク 季語

試験科目	人文科学研究科 日本文学専攻		試験時間
専門科目	修士課程《社会人》		一一〇分
	二〇二六年度	春季	

【注意】【I】【II】【III】の解答は、それぞれ別の解答用紙に記述すること。
そしてその際、必ず問題番号を冒頭に記載すること。

【III】 つぎの「A」に解答しなさい。ただし、文芸創作研究プログラム志望の受験者は、あとの「B」に解答しなさい。

「A」 つぎの文章は、『枕草子』の一節で、清少納言が宮中から退出し里住みをしていた時期の出来事が記されている。「これを読んで、後の問いに答えなさい。」

例ならず仰せ言などもなくて日ごろになれば、心細くてうちながむるほどに、^{*}長女文を持って来たり。
^{*}御前より宰相の君して、しのびて賜せたりつる」と言ひて、「ここにてさへひきしのぶるもあまりなり。
 「人づての仰せ書にはあらぬなめり」と、¹胸つぶれてとくあげたれば、紙には物も書かせ給はず。^{*}山吹の花びらただ一重を、包ませ給へり。それに「言はで思ふぞ」と書かせ給へる、いみじう日ごろの絶え間嘆かれつるみな慰めてうれしきに、²長女もうちまもりて、「御前にはいかが。物のをりごことに、思し出できこえさせ給ふなるものを。誰もあやしき御長居とこそ侍るめれ。³などかは参らせ給はぬ」と言ひて、「ここなる所に、あからさまにまかりて参らむ」と言ひて往ぬる後、⁴御返り事書きて参らせむとするに、この歌の本さらに忘れたり。「い」とあやし。同じ古ごとと言ひながら、⁴知らぬ人やはある。ただここともとおぼえながら言ひ出でられねば。いかにぞや」など言ふを聞きて、^{*}前にあたるが、「下ゆく水」とこそ申せ」と言ひたる。⁵などかく忘れつるならむ。これに教へらるるもをかし。

『枕草子』より

【注】 *長女

下級女官の監督をつとめる女性。

*御前

清少納言が仕えていた中宮定子のこと。

*山吹の花びら

『古今和歌集』に載る和歌「山吹の花色衣主や誰問へど答へずくちなしにして」を踏まえた趣向。

*前にあたる

清少納言に仕えている童女。

問一 傍線部1「胸つぶれてとくあげたれば」を現代語訳しなさい。

問二 傍線部2「言はで思ふぞ」は、『古今和歌六帖』に載る次の和歌の第四句である。

心には下ゆく水のわき返り言はで思ふぞ言ふにまされる

この和歌の下の句(波線部)を現代語訳しなさい。

問三 傍線部3「などかは参らせ給はぬ」を現代語訳しなさい。

問四 傍線部4「知らぬ人やはある」を現代語訳しなさい。

問五 傍線部5「などかく忘れつるならむ」を現代語訳しなさい。

【B】 テクノロジーの進化(生成AIなどの登場)で、創作はどのように変化してゆくのかわ、あなたの考えを簡潔に書きなさい。